

## 校内研究計画

### 1. 研究主題

「大切にしあえる仲間 活力ある児童をめざして」  
— 算数科を中心とした確かな学力を身に付けた子の育成 —

### 2. 主題設定の理由

#### (1) 教育への今日的課題

学力低下が問題となって久しいが、今日でも、そのことに関する話題が書籍や新聞などでよく取り上げられている。昨年末の OECD（経済協力開発機構）による学習到達度調査や、IEA（国際教育到達度評価学会）による学力調査の結果からも、読解力や学力の低下がはっきりと表れる傾向が見られた。

文部科学省では、「確かな学力向上のための2002アピール」に続き、中央教育審議会の答申の中でも「確かな学力」を「知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力」とし「生きる力」の必要性を再確認している。また、指導要領の基準性や『個に応じた指導』の一層の充実にも言及し、教師の指導のあり方の柔軟性や工夫を求めている。

また、『算数のできる子どもを育てる』など家庭で学力向上に取り組む書籍もたくさん出回っていて、保護者が我が子の学力を伸張するという「個に応じた」指導に関心が集まっている。

これらを受けて、学校教育において、子どもたちが学力を身に付け生きる力を育むためには、指導者一人ひとりの努力だけではなかなか対応できない時代に来ていると考えられる。そこで、学校や地域など、組織として、また、指導者集団としての取り組みが期待されている。

#### (2) 本校の教育と児童の実態

本校では、一昨年度より「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け、算数科を中心に児童の「確かな学力」についての指導体制や指導方法の工夫について取り組んできた。単元や児童の実態に応じた指導方法の工夫や、児童の希望を生かした学習集団づくりについての効果的な方法が少しずつわかってきた。また、「基礎基本」「発展」「個に応じる」をキーワードとして、3つの研究部がそれぞれに研究の柱を立て、指導方法のポイントを見つけてきた。

児童の意識調査では、算数の授業が楽しいと答えている児童がふえて来て、授業のふりかえりの記述の中でも授業を楽しんでいる様子がうかがえた。また、昨年度の公開研究会の参加者から、児童が意欲的・追求的に学習していたとの評価を得た。このように、今までより算数が好きになった児童が増えたり、意欲的に学習したりする様子から、本校児童は、算数科を中心に「確かな学力」を身に付け、友だちと関わりあって学校生活を送りつつあると感じている。

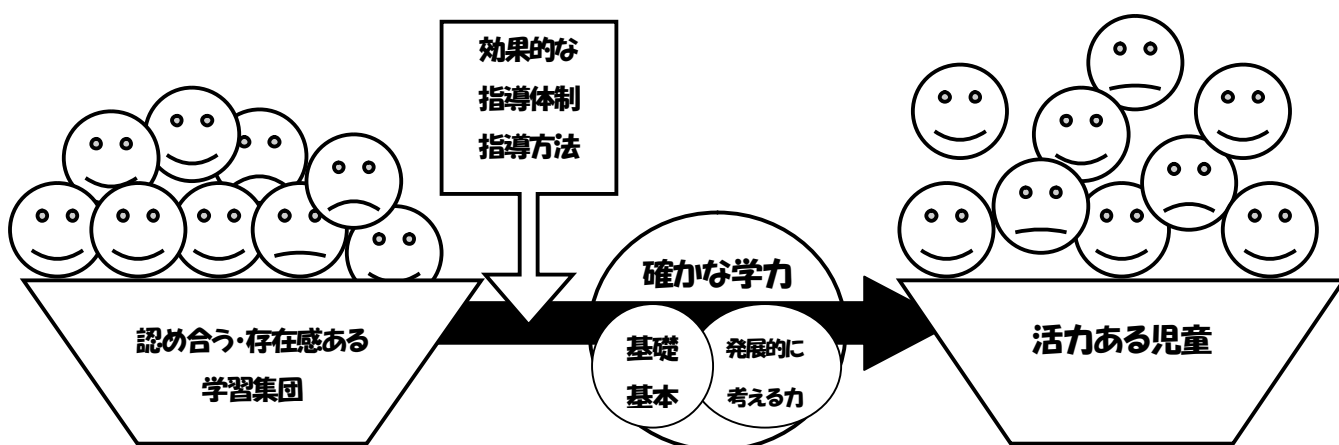
しかし、指導体制や指導方法には、まだまだ工夫の余地があり、それぞれの研究部会の成果を職員全体で共有化することも十分とはいえない。また、学力調査の分析では、思考・判断の能力はまだまだ育っていない傾向が見られる。授業では、落ち着いた学習態度で課題に意欲的に取り組み、問題解決をする児童の様子は見られるが、お互いに関わりあって深めたり広めたりする力や姿勢が育っていないと感じている。

人間性を大事にした「生きる力」になりうる「確かな学力」として、伝え合い関わりあって学ぶ姿勢、自ら考える姿勢を身に付けた児童を育てていけるように、さらに指導のあり方を考えていきたい。

また、取り組みから得たものを職員間で情報交換し、より効果的な指導のあり方を工夫していきたい。

### 3. 本年度の研究

昨年度と同様、一人ひとりが認め合える学習集団を基盤にしなが、算数科を中心とした確かな学力を身に付けることで、学習に積極的に取り組んでいく子ども達の育成をめざし、その指導体制や指導方法について深めていく研究とする。



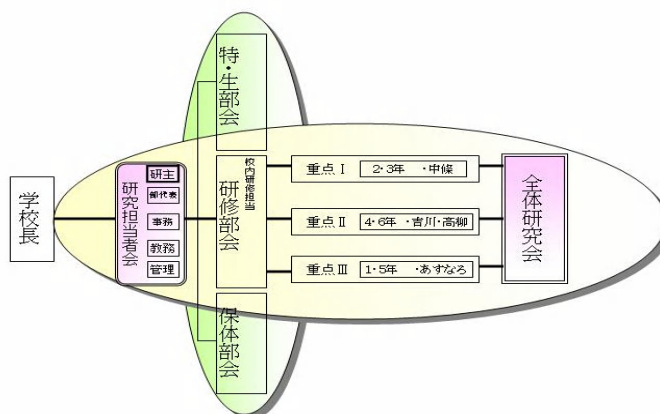
本校では、一人ひとりの存在感のある学習集団が確かな学力を支えると考え、児童が関わりあって学ぶ学習集団づくりを大事にしていくこととした。今年度は昨年度までと同様、伝え合いの上に確かな学力を身に付けることで、より主体的に学習に取り組み、周りとの関わりの中で積極的に自分の学びを高めていく活力ある児童を育てていきたいと考える。

ここで言う「確かな学力」とは、基礎的・基本的な学習内容の定着をもとにして、関心意欲、思考力、判断力、コミュニケーション能力などを含めて、発展的にも考えられる総合的な学力と捉えている。

今年度も、「確かな学力」を身に付けた子どもの育成をめざした指導体制と指導方法の改善のために、算数科を中心として、少人数の授業を行い、個に応じた評価や支援を考え効果的な指導を考えるものとした。

### 4. 研究体制および研究方法

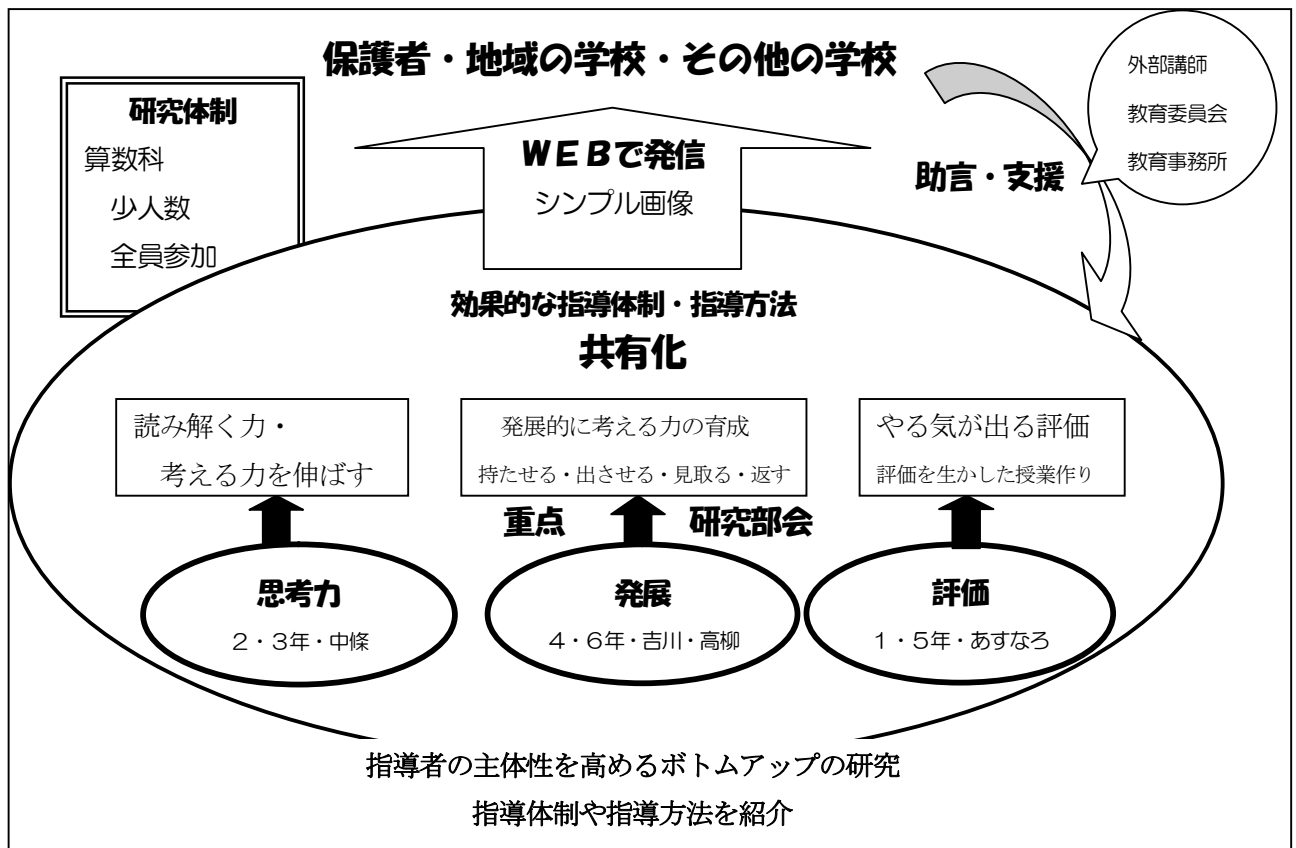
#### (1) 研究組織



## (2) 研究方法

少人数の指導体制により、指導者全員が算数科に関わるものとする。昨年度までの研究では、「基礎基本」、「発展」、「評価」の3つの重点であったが、いずれの部会においても、児童の思考力分野における研究を深めたいとの反省が残った。そこで、今年度は下記の3つを研究の重点とし、あすなろ学級を含めた学年団を中心として各重点研究部に所属し研究を進めることとした。そして、それぞれの重点研究部で明らかになった指導体制や指導方法の成果を、全体公開授業研究会や中間まとめなどで、全員で共有し、それぞれの指導に生かすこととする。

- ① 思考力を育てる授業づくり
- ② 発展的に考える力を育てる授業づくり
- ③ 評価を生かす授業づくり



児童が主体的に学習に参加するのと同様に、指導者自身が主体的に研究に参加し、意欲的に生き生きと指導していくために、各重点部会が中心となるボトムアップの研究方法を取り入れることとする。そのため、思考力・発展・評価の各部会での成果は、重なるところや抜け落ちるところもあると思われるが、なにより指導者の主体性を大事にしたいと考えている。

「確かな学力」を身に付けるための効果的な指導体制・指導方法は、できるだけ汎用性の高いものとした。そして、明らかになったことを、画像を中心としたシンプルな提案で外に発信していくこととする。また、発信したことで得られた意見や授業参観およびいくつかの公開授業や学習会など、外部か

ら頂いた助言や支援をさらに取り入れ、研究を見直したり深めたりしていくものとする。

## 5. 研究内容

### <効果的な指導体制>

#### (1) 少人数算数の指導体制

3年以上の学級・学年を分割して少人数学習集団を編制し、学級担任と少人数担当計10名で指導にあたる。1・2年生は、クラス算数を基本として、少人数算数を生かした指導に心がける。また、クラスを超えた学年での習熟度別・課題別・関心別学習集団を視野に入れた指導をする。

#### 【目的】

- ・少人数による学習集団を編制し、個に応じたきめ細かな指導を行うことで、基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、さらに学習を広げたり深めたりする指導を行う。
- ・単元の内容に応じて、習熟度別学習や課題別学習などを効果的に組み入れた学習過程を編成し、一人一人の個性や能力に応じた学習を行う。
- ・教師が話し合い、協力し合い、子ども一人一人を生かす指導システムをつくり出すことを通して、教師としての専門性・力量を高める。

#### 【実施計画】

##### <実施学年・時数>

	週時数	年間時数	基本集団担当	打ち合わせ時間
3年	8時間	280時間	1・2組 渡辺・米永・中條	金6時間目
4年	8時間	280時間	1・2組 泉・加藤・吉川	水2時間目
5年	8時間	280時間	1・2組 北本・前田・吉川	木3時間目
6年	4時間	140時間	1・2組 後山・沢田・吉川	水4時間目
合計	28時間	980時間	10名	4時間

##### <少人数学習集団>

基本的少人数学習集団 (単純分割集団)	学級を2または学年を3分割した、基本的に固定された集団 出席順などグループの力が近い水準になるように編制する。
習熟度別学習集団	ある一部の能力が近い水準にある集団 レディネステストや作業の結果を表す資料や教師の助言をもとにして、児童が グループを決定する。
関心別課題別学習集団	学習課題や興味関心によって分けられた集団 子どもの個性や希望の調査をもとに、学習したいコースを選択する。(コース により学習内容や活動、学習スタイルにちがいがあ)

##### <学習形態>

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1型 基本的少人数学習 | 5型 基本的少人数学習+習熟度別学習 |
| 2型 習熟度別学習   | 6型 基本的少人数学習+課題別学習  |
| 3型 関心別課題別学習 | 7型 TT+習熟度別学習       |
| 4型 TT       | 8型 TT+課題別学習        |

##### <少人数学習の進め方>

1. 少人数学習を効果的に行うための3つの重点研究部で実践されたことをもとに情報交換を行い

ながら、計画的に実施する。

2. 児童の実態、教師の特性及び単元の内容に応じて、上記の多様な学習形態を試みる。
3. 児童が学習に主体的に参加したりグループを選択したりできるように、自己評価の力を付けるよう意識させる。
4. どんな力をつけるのかついたのかを指導者や児童が考えることができるように、「わかる力」「できる力」「考える力」「算数を楽しむ気持ち・生活に生かす態度」の4つを授業の中で意識させる。
5. 少人数学習を意欲的効果的に行うために、グループの分け方やネーミングを工夫する。

<少人数学習の学習集団 予定表>

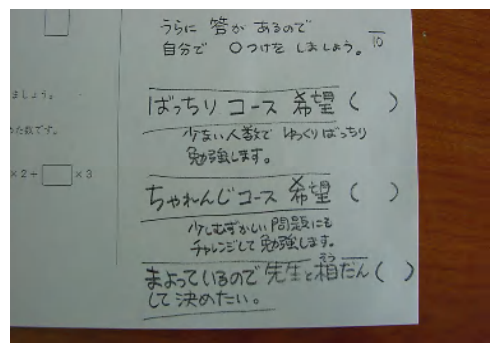
平成17年度 前期 算数指導体制							
	4月	5月	6月	7月8月	9月	10月	
3年	初① TT習 かけ算 ⑨ 単分⑨	時刻と時間 ⑩ 単分⑩	わり算 ⑬ 少習⑬	かさ ⑭ TT⑭単分⑭	長さ ⑮ 単分⑮	あまりのあるわり算 ⑯ 少習⑯	四角形 ⑱ 単分⑱
4年	初① TT 大きな数 ⑩ 単分⑩	円と球 ⑪ 単分⑪	わり算筆算 ⑫ 少習⑫	折れ線グラフ ⑬ 単分⑬	算珠に おいて ⑭ 少習⑭	少数 ⑮ 単分⑮	三角形 ⑯ 単分⑯
5年	初① TT 小数のしくみ ⑱ 単分⑱	小数のかけ算わり算 ⑲ 少習⑲	垂直・平行と四角形 ⑳ 単分⑳	分数のたし算 とひき算 ㉑ 単分㉑	算珠に おいて ㉒ 少習㉒	計算のきまり ㉓ 少習㉓	小数のかけ算 ㉔ 少習㉔
6年	初① TT 倍教と約教 ㉕ 単分㉕	分数たし算ひき算 ㉖ 少習㉖	平均 ㉗ 単分㉗	単位量あたり・速さ ㉘ 少習㉘	夏休み ㉙ 単分㉙	分数のかけ算 とわり算(1) ㉚ 少習㉚	分数の わり算 少習

平成17年度 後期 算数指導体制								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
3年	大きい数の しくみ ① 単分①	かけ算の筆 算 ② 少習②	ほうグラフと表 ③ 単分③	重さ ④ TT④単分④	かけ算の筆 算(2) ⑤ 少習⑤	箱の形 ⑥ 単分⑥	復習 ⑦ 少習 ⑦	
4年	分数 ⑧ 少習⑧	わり算筆算 ⑨ 少習⑨	角 ⑩ 少習⑩単分⑩	がい数 ⑪ 単分⑪	計算のきまり ⑫ 少習⑫	面積 ⑬ 単分⑬	変わり方調べ ⑭ 単分⑭	復習 ⑮ 少習 ⑮
5年	小数のわり算 ⑰ 少習⑰	図形の角 ⑱ 単分⑱	がい数の計算 ⑲ 単分⑲	平行四辺形と三角形 の面積 ⑳ 単分⑳	分数と少数 ㉑ 単分㉑	百分率とグラフ ㉒ 少習㉒	円周と円の面積 ㉓ 単分㉓少習㉓	復習 ㉔ 少習 ㉔
6年	分数のかけ算 わり算(2) ⑳ 少習⑳	高立方体と立方体 ㉑ 単分㉑	体積 ㉒ 少習㉒	比 ㉓ 少習㉓	比例 ㉔ 少習㉔	復習 ㉕ 少習 ㉕		

<習熟のコース選択>

個が決定する習熟度別学習集団コース選択を基本とする。  
コース選択にあたっては、クラスで習熟の単元の内容や習熟度別の人数や学習の進め方を話し、簡単な単元のオリエンテーションを行うことで習熟度別の学習集団をイメージしてから、レディネステストを行ったりする。

コース選択の方法としては、レディネステストを行い、児童のコース希望をとる。「相談して決める」という選択肢を設け、担任が助言する。



算数科のA領域「数と計算」を中心として、習熟度別の学習集団とする。レディネステストでは、既習の計算の表現・処理の力がついているかを自己評価し、コース選択の手がかりとする。

### 打ち合わせ時間の確保

複数が関わって指導を行ったり、指導方法の工夫をしたりするには、打ち合わせの時間の確保が必須である。そのため、時間割の中に打ち合わせ時間を明記する。

打ち合わせの時間で主に下記について話し合う。

- ① 効果的な指導体制
  - ・単元に応じた学習集団（単純分割・習熟）とコース選択について
- ② 効果的な指導方法・・・単元の進め方・ふりかえり・共通して抑えたいこと・指導のコツ
- ③ 児童理解・・・児童の実態・評価の情報交換・個に対する効果的な支援方法

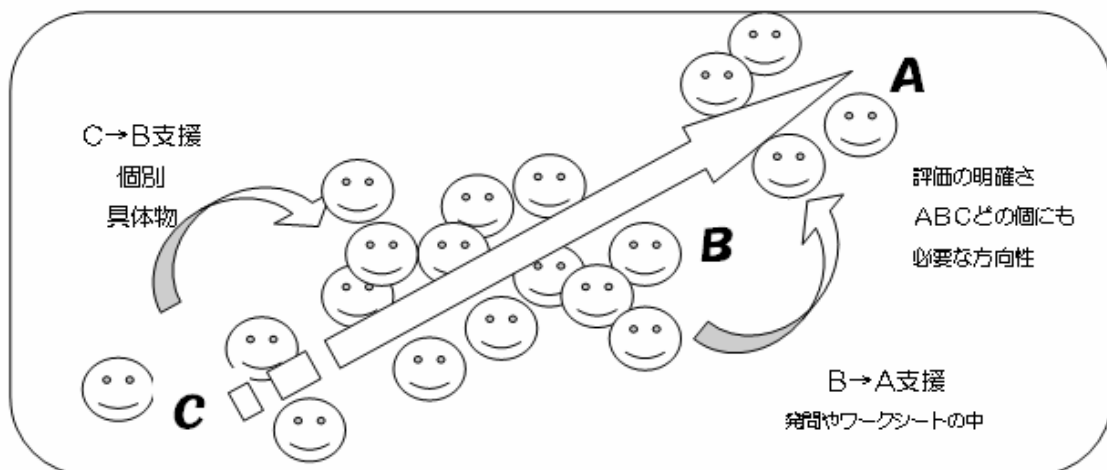
	月	火	水	木	金
1					
2			4年 吉川 少人数算数打ち合わせ		
3				5年 吉川 少人数算数打ち合わせ	
4			6年 吉川 少人数算数打ち合わせ		
5	1年 打ち合わせ				
6	あすなろ 打ち合わせ	2年 打ち合わせ			3年 中條 少人数算数打ち合わせ

打合せ時間割表

### (2) 指導にAB評価

指導案に評価を入れることで、ねらいだけでなく期待する児童の姿が明確化される。それによって、支援も具体的に想定して指導にあたるのが可能になる。Cの個がBになる支援は、個別だったり具体物の提示だったりした。Bの個がAになる支援は、発問やワークシートの工夫で行われることが多い。

また、Aの基準は児童全体の方向性でもあり、それを明記することで教材研究や授業設計がよりシャープになる。



### (3) 朝学習の活用

朝学習の時間10分を活用して、狭義の基礎基本の定着を図る。

思考力を育てるには、読むこととは切り離せない。月・火曜日は全クラス読書タイムとして、読むことに慣れたり、読解力を伸ばしたりすることとする。

また、水曜日は計算の時間とし、表現・処理の力を確かなものとする時間とし、算数の学習中の単元の繰り返しやレディネスをはかる時間とする。

計算チャレンジ旬間や読書旬間も計画的に取り組む予定である。



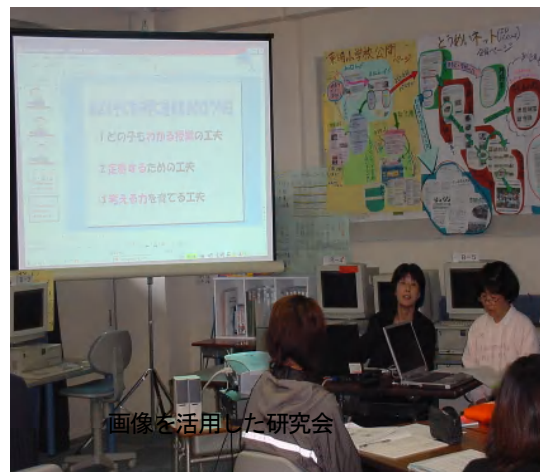
朝学習の活用

### (4) 学習の構えカードの導入

学びの基本は、学ぶ姿勢であるとも言える。まずは学習の用具を揃え、学習に望む姿勢を家庭と連携して育てたいと考え、カードを導入した。まだまだ課題は残るが、年間を通して定期的に取り組んでいきたいと考えている。よりよい学びの力への手助けとなるように活用したい。

### (5) 画像活用による効果的な情報交換

授業整理会や中間まとめでは、児童の様子や指導の様子がわかるような画像を提示することで、指導方法を具体的に理解することができる。また、指導方法をホームページで紹介したり、ものを活用したりして、職員間での指導法の共有化を図る。習熟度別の全体研究授業の整理会などでも、2クラスを公開するために、見ることができなかった指導場面も画像によって、イメージを持って意見交換ができる。



画像を活用した研究会

(6) 保護者への理解

保護者の少人数学習に対する理解を得て不公平感・不安感を解消するために、PTA総会で少人数学習についての説明をし、学校便りや学年便り、懇談会などで積極的・定期的に情報を発信することとする。また、授業参観では、積極的に公開授業をし、具体的場面での少人数指導のイメージを持ってもらうこととする。

